

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990500340		
法人名	特定非営利法人福聚会		
事業所名	グループホームむへん		
所在地	栃木県鹿沼市板荷2972-1		
自己評価作成日	令和5年11月17日	評価結果市町村受理日	令和6年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の状態変化に対して柔軟な対応が出来る。 大切にしてきたことが継続できるように支援します。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、市北部の山間の集落に位置し、周囲に山々が見渡せる自然豊かな環境にある。建物は、1階が小規模多機能型居宅介護事業所、2階がグループホームとなっており、日常的に職員、利用者が行き来し交流しているほか、連携して事業実施している。職員は、「一人の想い大切に」「人と人」という理念のもと、利用者本位の視点で利用者1対1で過ごす時間を大切にしながら、思いに沿ったケアの実践につなげている。家庭での生活の延長であることを重視し、趣味や習慣など、自宅で大切にしてきたことを続けられるように支援している。玄関は施錠せず、エレベーターや階段も職員の見守りのもと自由に使えるよう支援しながら、抑圧感のない暮らしを提供している。食事は3食とも職員の手作りで、利用者にも食材の買い出しや調理過程に参加してもらうなど、利用者が持つ力を発揮したり、食の楽しみを感じられるよう工夫している。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	令和6年3月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	念頭において理解しているが、実践出来ている時となかなか出来ていない事がある。	「一人の思い大切に」「人と人」という理念を利用者に書いてもらい、掲示している。職員は、利用者と1対1で過ごす時間を大切にしながら、思いに沿ったケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	何ヶ月に1回ペースで地域行事に参加させて頂く事はあったが、日常的に交流は出来ていなかった。	敬老会に参加したり、事業所で餅つき大会を開催して地域の方を招いたり、行事を通して積極的に交流している。地元の中学生を相手に、本部長が授業を実施したり、事業所に学生を招くなど、福祉の啓発にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様への日常支援のみとなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、駐在所、市職員、コミュニティーセンター所長、民生委員、見守隊等、多くの地域代表にご参加頂き、開催頂いた意見を運営に反映している。	民生委員、駐在所員、コミュニティーセンター所長など、多方面からの参加を得て開催している。防災に関する意見や、事業所の取り組みを外部に知ってもらうための発信方法などの提案が出され、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことや、悩んでいることなど問い合わせし助言を頂いている。	事業所の実情を知ってもらうために、小さな悩みもこまめに相談している。連絡を密にしながら、市担当職員との連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切なケア、グレーゾーンを意識し、圧迫感のない生活支援に努めている。施錠をせず、自由に外に出られるようにしている。可能な限り行動制限をしない。職員同士がその場で注意し合える関係性である。研修に参加している。	利用者の行動の原因となる課題や不安を取り除くケアの実践に努め、見守りによる支援を徹底している。玄関は施錠せず、エレベーターや階段も自由に使い外に出られるようにしている。抑圧感のない自由な暮らしの大切さを家族にも説明し、理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学ぶ機会があり、防止に努めている。事故報告書やヒヤリハットの推進に努め、見過ごしていることはないか注意を払っている。		

グループホームむへん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加で制度の理解を深めている。個別の会議を設け、必要性のあるご利用者については包括支援センターの職員に同席してもらい会議を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新しい加算取得に際し、書面で説明し同意を得ている。具体的な金額をお示しし分かりやすい工夫をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。また、ご家族様の面会時に積極的なコミュニケーションで意見を汲み取りやすい環境作りに努めている。	手紙や電話の他、LINEを活用して、写真や動画を添えて利用者の近況報告をしている。積極的に面会を受け入れ、対面でコミュニケーションをとり意見を汲み取る機会を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	LINE等のツールを活用し、情報の発信やご意見を頂きやすい工夫をしている。	管理者は、かしまった場を設けずいつでも意見を表せるよう、職員との関係づくりに努めている。利用者のためになることは職員の裁量で自由に運営に取り入れてもらうなど、職員の気づきに対して柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に参加しやすい工夫をしている。振り返りと評価、共有に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ネットワークの事務局を担い連携に努めている。		

グループホームむへん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の一つ一つの反応や言動に気を付け支援に繋げていけるよう努めている。時間をかけて、話会う時間を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様だけでなく、ご家族様も安心して過ごせるよう要望や不安な事等耳を傾けながら、関係づくりに努めている。面会時や電話、LINE等で、聞き取りを行い大変さ等を共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の入居者や職員と馴染めるよう、コミュニケーションや環境の変化によって症状が悪化しないように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いつでも寄り添えるに心掛けている。自分の入浴後の洗濯物を畳んで頂いたり、食材の買い物と一緒にいたりと共に過ごしているを意識し行っているが全員はなかなか行えていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が協力的な方々が多く、ご家族様から参考になる意見を頂いたり、こちらから提案をしたりと本人が少しでも過ごしやすい環境になる支援が図れるよう努めている。なかなか面会に来られない方にはLINE等を活用し連絡するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の取次ぎを支援している。家族に面会に来て頂けるよう声掛けしている。趣味活動の継続を応援し、発表会に同行している。	年賀状のやり取りや電話の取り次ぎを支援しているほか、積極的に馴染みの人の面会を受け入れ、関係継続にむけて働きかけている。編み物を趣味としている利用者の作品展示を支援するなど、自宅で暮らしていた時の生活習慣を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活で関係性を把握し、テーブル席等配慮したり、レクリエーションを行う際に声掛けし、皆で出来る事は一緒に行ったり無理のない範囲で支援を行っている。		

グループホームむへん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移動する際、暮らし方や大切にしてきたことを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の視点に立って考える事を意識している。(日常生活の中で言葉やしぐさ等から汲み取るよう努めている。)	利用者の生活歴や、家族からの情報を参考に、意向の把握と職員間での共有に努めている。職員と1対1で過ごす時間に本音がしやすいことから、入浴支援時のさりげない会話やちょっとした表情の変化への気づき等も大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートで把握。また、本人やご家族様との日頃のコミュニケーションで知り得たもの等で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、記録で把握したり、日頃から共に過ごす中で小さな変化の気付きを見落とさないよう観察。職員と共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族の聞き取りを丁寧に行い、職員会議等で共有し、モニタリングを行っている。見直しも行っている。	日頃の関わりの中で、利用者、家族の思いを丁寧に聞きとり、計画に反映させている。6カ月毎の見直しを基本としているが、計画期間以外でも、変化に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者、ご家族の聞き取りを丁寧に行い、職員会議等で共有し、モニタリングを行っている。見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の愛犬と一緒に施設で暮らす等取り組んでいる。		

グループホームむへん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	床屋、郵便局、畑など、協力して下さる地域の方が沢山おり、出向いていけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に通えるようにしている。 送迎や情報提供、受診同行している。	利用前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。家族対応での受診を基本とし、困難な場合は職員が同行するなど、利用者一人ひとりの事情に配慮しながら対応している。受診状況を電話で確認したり、事業所での利用者の様子を手紙で知らせたりと、医療情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り、記録で把握したり、日頃から共に過ごす中で小さな変化の気付きを見落とさないよう観察。職員と共有し、現状の把握し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	研修会に参加したりして、顔の見える関係作りに努めている。書面などで情報のやり取りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面で説明し同意を得ている。状態の変化都度、話し合いを行っている。	看取りの指針を作成し、かかりつけ医との連携のもと、利用者、家族の希望に沿った支援に努めている。状態変化の都度関係者で話し合い、方針の統一を図りながら支援しており、看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などで知識の習得を行っている。新人職員への指導が不十分であった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を実施し、把握している。地域の方も含めた訓練が実施できている。	年2回、土砂災害や水害想定等の避難訓練を実施している。マニュアルを整備し、職員は垂直避難を中心とした避難行動を身につけている。消防団員に有事の際の安否確認を依頼するなど、協力体制を築いている。	昼夜を通じて様々な発生時間を想定して避難誘導時の動線確認を行ったり、夜勤の職員に対して図上訓練を実施するなど、更なる実践的な取り組みに期待したい。

グループホームむへん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ等意識し、対応していた。	接遇研修を実施し、人格やプライバシーを尊重したケアについて学んでいる。言葉遣いについては特に意識し、利用者を年長者として敬う姿勢を徹底している。個人情報に係る書類は施錠できる場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を働きかけていたが、中には自己決定が難しい方もいらっしゃるので表情やしぐさを汲み取るよう努めた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日の変更等職員の出勤状況等で希望に添えない事もあったが、本人のペースや体調を見ながらどのように過ごしたいか汲み取りながら対応していた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選べる方には決めて頂いたり、定期的に髪の毛のカット依頼をしたりと支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お菓子作りで入居者様に準備して頂く事はあるが(材料を混ぜる等)キッチンで食事の準備をするのはあまり前向きではないようで、こちらで準備する事が多い。テーブル拭き、下膳等を入居者様の気分によって一緒に行って頂ける事はある。	利用者の好みを取り入れながら献立作成し、毎食職員が手作りしている。一緒に食材の買い出しに出かけたり、調理過程に参加してもらうなど、利用者が持つ力を発揮したり、食の楽しみを感じられるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについてはなるべく偏らないよう考慮しているが、厳密さはない。水分については自ら水分を摂ろうとしない方には食事中のお茶を本人の好きな飲み物に変えて提供したり工夫している。塩分注意の方には量を調節行い、対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実践している。必要に応じて訪問歯科診療して頂き、専門の方のアドバイスを受け、共有し対応している。		

グループホームむへん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尊厳保持、プライバシー保護を念頭にQOL低下を招かぬ様トイレ排泄継続出来る様に努めている。	出来る限りトイレで排泄できるよう、記録をもとに声掛けのタイミングを図り、誘導、介助している。夜間はリハビリパンツ、パット交換等、利用者一人ひとりの状態に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別で乳製品やファイバー製品を状態に応じて摂取している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様のその時の希望や状態によって無理強いする事なく、日にちや時間帯を変えて対応している。	週2回を基本に、希望の時間帯に入浴できるよう、職員体制を整えている。シャンプーなども使い慣れた好みのものを持ち込んでもらい、一人ひとり湯を入れ替え、好みの温度でゆったりと入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じた休息時間を設けて生活パターンを作るケースがある。安眠の為、本人の使い慣れた馴染みの寝具等環境的配慮に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際に個人の申し送りノートへ記載し職員間で共有、副作用等に対する対応、注意する事なども把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、嗜好品の把握に努めている。個別で気分転換(買い物等)の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援はなかなか行えていないが、地域行事に参加したり、個別に買い物やご家族との外出支援を行っている。	日常的に事業所周辺を散歩している他、職員と一緒に買い物に出かけたり、花を見にドライブしたりしている。家族とも自由に外出できるよう働きかけている。	

グループホームむへん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の大切さを共有し一律で事務所管理にはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはキッチン、ソファ等生活のメリハリを配慮している。窓からの眺めや自然光を浴び、季節感やその日の天候等を直接感じられる。	日当たりの良いリビングにはソファを配し、利用者が思い思いの場所で心地よく過ごせるよう、換気や温湿度調整にも配慮している。華やかな装飾はせずに、季節の花を飾るなど、家庭的な雰囲気大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係作りの場としてのセミパブリックスペースを設けていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅環境を継続する為の環境支援でその人らしさを表現している。整理整頓が不十分である。	洗面台、トイレ、エアコン、クローゼットが備え付けられている。テレビや冷蔵庫、遺影等を自由に持ち込んでもらい、その人らしい部屋作りを支援している。トイレの臭いやベッドメイキングにも気を配りながら、心地よい環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の構造上のリスク箇所を理解しながら対応。居室内には入居者様の状態に合わせて環境を整えている。必要に応じてトイレドアに表示等をしたり、自立した生活が送れるよう努めている。		